

令和 2 年 7 月 6 日現在

機関番号：24201

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K02270

研究課題名（和文）中世の『伊勢物語』イメージ形成に関わる「伊勢物語絵」と文芸の総合的研究

研究課題名（英文）Synthetic research of the world of The Tale of Ise which was formed by the pictures of The Tale of Ise and related literary art

研究代表者

亀井 若菜（Kamei, Wakana）

滋賀県立大学・人間文化学部・教授

研究者番号：30276050

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、中世から近世初期に作られた「伊勢物語絵」を対象とし、『伊勢物語』の注釈書や関連する文芸を調べ、一つ一つの「伊勢物語絵」がどのような『伊勢物語』世界を見せようとしているのかを探求することである。メトロポリタン美術館蔵「伊勢物語図屏風」（16世紀後半～17世紀前半）には17の場面が描かれ、その12場面に女性が登場する。その女性達は「古注」の系統の注釈書で二条后と有常娘とされた女性であることが判明した。二条后は「密通した後」、有常娘は「貞女の鑑」と認識されていた。本屏風は、業平とこの二人との恋の物語を展開させ、当時の女性観と関わって『伊勢物語』の世界を見せるものであることがわかった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまでの「伊勢物語絵」の研究では、ある作品の内容を詳細に紹介することや、段ごとに複数の作品の図像を比較しその特徴や変遷の様相を検討すること、制作事情がわからない作品の絵師や制作年代を推定することなどが多く行われてきた。しかし、多くの場面を描く一つの「伊勢物語絵」が、いかなる立場・身分にある人の視点から描かれ、どのような『伊勢物語』世界を見せようとしているのかを検討することはなされていない。本研究では、美術史と国文学の研究者が協同し、図像比較と文献読解を綿密に行うことにより、メトロポリタン美術館蔵「伊勢物語図屏風」の17場面がいかなる視点から選ばれ描かれているのかを明らかにした。

研究成果の概要（英文）：The central purpose of our research is to pursue the way how they showed the world of The Tale of Ise through the pictures by studying commentaries of The Tale of Ise and relevant literary art. Our span of term is from medieval period to early-modern times. On the folding screens of Scenes from The Tale of Ise in the Metropolitan Museum of Art (depicted from last half of 16th century through first half of 17th century) seventeen scenes are depicted and among them, we can see women in twelve scenes. Our study of the commentaries of kin of “Kochu” makes it clear that they are Niijou no Kisaki and Aritsune no Musume. The former was recognized as an adulteress empress and the latter was as a model of chaste woman. This research reveals that these screens showed the love story of Ariwara no Narihira with these two women based on a view of women of the era.

研究分野：美術史

キーワード：伊勢物語 伊勢物語絵 有常娘 二条后 ジェンダー

1．研究開始当初の背景

平安時代の歌物語『伊勢物語』を題材とした絵を描く「伊勢物語絵」については、これまでに多くの論文や書籍が発表されている。網羅的に「伊勢物語絵」を紹介したものには、伊藤敏子編『伊勢物語絵』（伊藤敏子編、1984年）、『日本の美術 301 伊勢物語絵』（千野香織、1991年）、『伊勢物語絵巻絵本集成』（羽衣国際大学日本文化研究所編、2007年）などがあり、個別の作品紹介も様々な研究者によってなされている。また、『伊勢物語』の章段ごとに複数の作品の図像を比較し、その特徴や変遷の様相を指摘する研究も多く行われている。しかし、一つの「伊勢物語絵」における各段の図の特徴を抽出した上で、それらの図が集まってできている一つの「伊勢物語絵」が、いかなる立場・身分にある人の視点から描かれ、どのような世界観を見せようとしているのかということを検討する研究は、ほとんどなされていない。

これを解明するためには、「伊勢物語絵」の図様の検討だけではなく、『伊勢物語』の享受の様相を、『伊勢物語』の注釈書や関連する文献から読み解くことが必須となる。『伊勢物語』については時代毎に数々の注釈書が書かれ、『伊勢物語』を題材とした歌学書、連歌学書、御伽草子、仮名草子、女訓書が作られるなど、幅の広い受容がなされた。そのため、それらの文献を見ることによって初めて、『伊勢物語』の享受の様相を推測し、『伊勢物語』イメージがいかなる人々によって、いかに形成されていたかを推測することが可能となる。一つ一つの「伊勢物語絵」に展開する図様の意味を解釈することは、そのような考察を踏まえることなしには困難であると考えられる。

そこで本研究では、時代毎に出された注釈書等を綿密に読解することはもとより、芸能や女訓書に摂取されたものまでを視野に入れ（「文芸」と総称する）、美術史と国文学双方から総合的に『伊勢物語』イメージを探求し、「伊勢物語絵」について考察する。

2．研究の目的

これまでの「伊勢物語絵」の研究では、一つの作品に描かれた様々な絵の図像的特徴を貫く意味を、注釈書等の内容と有機的に関連させながら読み解くことは行われていない。本研究では、美術史と国文学の研究者が協同し、中世から近世初期の「伊勢物語絵」を対象とし、『伊勢物語』の注釈書や関連する文芸を調べ、一つ一つの「伊勢物語絵」がどのような『伊勢物語』世界を見せようとしているのかを探求する。

3．研究の方法

- (1) 「伊勢物語絵」の図像を可能な限り収集してスキャン、データ化し、作品ごと、章段ごとに整理する。そして、それぞれの図像を作品ごと、章段ごとに比較し、共通点や相違点について検討する。
- (2) 様々な「伊勢物語絵」及び関連する作品の調査を行う。

本研究では以下のとおり調査を行った。2016年には、ハーヴァード大学美術館で「伊勢物語 絵巻A本」、メトロポリタン美術館で「伊勢物語図屏風」と「伊勢物語図色紙 宇津山」、物語 絵の参考作品としてハーヴァード大学美術館で「源氏物語画帖」、フリヤ美術館で「源氏物語白 描画帖」、「源氏物語図屏風(帚木・若菜上)」、メトロポリタン美術館で「源氏物語図屏風(関 屋・行幸・浮舟)」を、2017年には、久保惣記念美術館で「伊勢物語絵巻」、2018年には、出光 美術館で「伊勢物語図屏風」2点、伝依屋宗達筆「伊勢物語図屏風」、サントリー美術館で「伊 勢物語色紙貼交屏風」、海の見える杜美術館で「伊勢物語画帖」を、2019年には、斎宮歴史博物 館で「伊勢物語図屏風」と「伊勢物語絵巻」3巻、チェスター・ビーティー図書館で「伊勢物語 絵」3冊、大英図書館で「伊勢物語図会」3巻、「伊勢物語画帖」断簡9図を調査した。

(3) 中世から近世にかけて出された『伊勢物語』の注釈書である『書陵部本和歌知頭集』『島原 文庫本和歌知頭集』『冷泉家流伊勢物語抄』『愚見抄』『肖聞抄』『宗長聞書』『闕疑抄』『次第 条々』『歌之注』『懐中抄』『陽成院伝』『十巻本伊勢物語注』『増纂伊勢物語注』『伊勢物語奥秘 書』『伊勢物語拾穂抄』『勢語臆断』などを、章段ごとに細かな記述にも注意しながら読み、各 注釈の意味を捉え、またそれが データ化した「伊勢物語絵」の図像と関係していないかを 探った。また『伊勢物語』の内容を引用している謡曲の「井筒」や「雲林院」、『伊勢物語』の 登場人物について言及する「花鳥風月」「雀さうし」や「女家訓」等の内容についても同様に検 討した。

4. 研究成果

2016年度に調査を行ったメトロポリタン美術館蔵「伊勢物語図屏風」(以下、メトロポリタン 本)は、『伊勢物語』全125章段の中から12章段を選び17場面を描くものである。選ばれた場 面やその表現を様々な注釈書の内容と比較したところ、本屏風が登場人物を実在の人物に比定 して解釈しようとする中世の注釈書の方法に則って描かれ、独自の『伊勢物語』観を見せるもの であることが見えてきた。当初は東京国立博物館蔵「異本伊勢物語絵巻」、小野家蔵「伊勢物語 絵巻」、中尾家蔵「伊勢物語画帖」を研究対象として設定していたが、メトロポリタン本が本研 究の目的を果たす上で大変重要な作品であることが判明したため、本屏風を本研究の中心的な 対象とした。本屏風は、伊藤敏子著『伊勢物語絵』(角川書店、1984年)において17世紀のもの として初めて紹介された。しかし制作年代や制作の事情などに関わる文字資料はなく詳細は 不明であり、また伊藤氏による解説以降、詳細な研究論文は出されていない。以下メトロポリタ ン本に関する研究成果について記述したい。

本作品は、各隻縦93.2、横262.2センチメートルの小型の六曲一双、紙本着色の屏風である。 17場面は一双屏風の右から四季の順に配され、その図柄の多くはチェスター・ビーティー図書 館に所蔵される「伊勢物語絵本」の系統の図様と類似している。画面上には各場面で詠まれた和 歌の文字も書かれている。

本屏風は『伊勢物語』を描く屏風として、他の作品にはない特色を有している。描かれた 17 場面のうち 12 場面に女性が登場しており、残りの 5 場面中 4 場面にも女性を想うが故の行動をする男性が描かれているのである。その 12 場面について様々な注釈書を繙いたところ、鎌倉時代の『冷泉家流伊勢物語抄』や、その流れを引く室町中・後期の『伊勢物語奥秘書』『伊勢物語懐中抄』『伊勢物語陽成院伝』といった古注の系統の注釈書において、二条后にじょうのきさきと有常娘ありつねのむすめに比定される女性が登場する段ばかりであることが判明した。言うまでもないが、『伊勢物語』本文には、登場人物の名は多くの場合記されていない。また、ある段と別の段との時間的な前後関係も記されていない。そのような『伊勢物語』の特定の段を、一連の人物の物語として読もうとしたのは後世の人々であり、各注釈書にはそれぞれの解釈が示されている。

本屏風はこれら古注の系統の人物比定に基づけば、二条后に 5 場面、有常娘に 7 場面を費やしており、それらを右から左へと順に配することで、この屏風ならではの『伊勢物語』世界を見せるものとなっている。右隻では、業平の二条后への恋情と、有常娘との出会い、左隻では、二条后の業平への嫉妬と執着、そして有常娘の誠実な愛情による業平との愛の復活が表現されている。つまり本屏風では、業平の二条后との禁断の恋の始まりと終わり、有常娘との関係の始まりと復活が、左右隻をまたいで表されているのである。

このように二条后と有常娘を描く背景には、中世から近世における二人の人物像についての理解があったと考えられる。清和天皇の女御となる二条后は、『伊勢物語』における業平の恋愛の相手として最重要であるものの、「密通した後」として女訓書や古作の謡曲「雲林院」では批判的に取り上げられている。一方有常娘については、世阿弥の謡曲「井筒」以降、「待つ女」「貞女」のイメージが定着し、近世に入ると御伽草子や女訓書などで貞女の典型、婦徳の鑑として顕彰される。本屏風ではこうした理解を背景に、二条后と有常娘が上述したように描かれたのだと考えられる。

しかし、それにとどまらず、本屏風の各場面を見ると、定型化した「伊勢物語絵」の表現を見直し、その場面における人物の微妙な心の動きまでも見せるような表現がなされている。本屏風は女性への婦徳を示しつつ、独自の『伊勢物語』世界を見せるものであると言えるだろう。

また今回の研究で、屏風に書かれた和歌の文字が、道澄（1544～1608年、近衛植家の子、聖護院第26代門跡）の字に酷似することが判明した。本屏風の文字が制作と同時期に書かれたのならば、本屏風はこのような道澄の交流圏内にいる人物によって 16 世紀後半から 17 世紀前半頃に制作されたものと言える。

本研究では注釈書等の解釈にも踏み込んで「伊勢物語絵」の享受者の『伊勢物語』観を探ることを目指した。メトロポリタン本についてはその目的に沿った考察を深めることができたと思う。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 安達敬子	4. 巻 88
2. 論文標題 「伊勢源氏十二番女合」序文致	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 文藝論叢（大谷大学）	6. 最初と最後の頁 104～125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 亀井若菜・細馬宏通	4. 巻 41
2. 論文標題 亀井若菜・細馬宏通対談「粉河寺縁起絵巻」を読み解く	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 人間文化 滋賀県立大学人間文化学部研究報告	6. 最初と最後の頁 38～44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 安達敬子
2. 発表標題 「伊勢源氏十二番女合」致
3. 学会等名 関西軍記物語研究会 88回例会
4. 発表年 2016年

1. 発表者名 安達敬子、亀井若菜
2. 発表標題 メトロポリタン美術館蔵「伊勢物語図屏風」が見せる伊勢物語の世界
3. 学会等名 美術史学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 安達敬子、亀井若菜
2. 発表標題 室町後期から織豊期にかけての伊勢物語注釈と伊勢物語絵 メトロポリタン美術館蔵「伊勢物語図屏風」を読む
3. 学会等名 関西軍記物語研究会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計5件

1. 著者名 京都府立大学文学部日本・中国文学科	4. 発行年 2018年
2. 出版社 京都出版センター	5. 総ページ数 185
3. 書名 古典籍へようこそ 遊びをせんとや	

1. 著者名 岡田三津子 編 安達敬子注釈の一部執筆	4. 発行年 2017年
2. 出版社 三弥井書店	5. 総ページ数 393
3. 書名 資料と注釈 早歌の継承と伝流 明空から坂阿・宗砌へ	

1. 著者名 安達敬子ほか（共著）	4. 発行年 2016年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数 434
3. 書名 時雨物語絵巻の研究	

1. 著者名 高橋亨、安達敬子、母利司朗、伊藤信博、藤原英城、中村真理、富田和子、小林孔、岡本聡、石塚修、野澤真樹、大関綾、早川由美、畑有紀	4. 発行年 2020年
2. 出版社 臨川書店	5. 総ページ数
3. 書名 和食文芸入門（仮題）	

1. 著者名 安達敬子、吉江崇、本井牧子、井上えり子、佐野静代、西弥生、増淵徹、木立雅朗	4. 発行年 2020年
2. 出版社 京都府京都学・歴史館	5. 総ページ数 163
3. 書名 令和2年度 京都府城の文化資源に関する共同研究会報告書（洛東編）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	安達 敬子 (ADACHI KEIKO) (90194555)	京都府立大学・文学部・教授 (24302)	